

登山月報



ゼム・ギャップ(5,861m)



8月11日 みんなで山を考えよう!
 祝「山の日」
 全国「山の日」協議会
 山に親しむ機会を得て、山の恩恵に感謝する

第7回リードユース日本選手権印西大会報告	2
第126回 Mountain World	5
新連載 『日山協と私』	6
2019 Skimountaineering World Championships 報告	7
アジアンミーティング報告	8
IFSC Officials Seminar 2019	9
平成30年度 登山普及情報交換会	11
夏山リーダー講習会講師養成講習会	11
JMSCA、寄贈図書、表紙のことば、編集後記	12

第7回リードユース日本選手権印西大会報告

3月23, 24, 25日の3日間、千葉県印西市松山下公園総合体育館を会場として、国際ユース大会代表選手選考資料となる第7回リードユース日本選手権が、男子164名、女子129名の過去最多となる選手が出場して開催された。

この大会の歴史をさかのぼると、1997年に埼玉県川口市のパンプ1号店で開催された第1回全日本学生フリークライミング選手権となるが、そこから数えて通算22回は、1998年に始まったJOCジュニアオリンピックカップと同じ回数で、大会会場は民間クライミングジムから国際アウトドア専門学校、千葉県立幕張総合高等学校、東久留米市スポーツセンターと移り変わり、2011年から9年間は印西市松山下公園総合体育館で開催されている。大会名は全日本学生フリークライミング選手権からユースチャンピオンシップ、ユース選手権、日本選手権リード競技大会と変わってきたが、主催者がJFAからJMAに移った2013年を第1回として今年の大会を第7回と数え、大会名を鳥取県倉吉市で開催されているボルダリングのユース日本選手権と揃えて「第7回リードユース日本選手権印西大会」とすることになった。

同じ会場で3週間前には第32回リードジャパンカップが開催され、この後も4月28日に全日本マスターズクライミング選手権、7月27, 28日に国体関東ブロック大会、10月26, 27日にはIFSCワールドカップリード第6戦(最終戦)の開催が予定されている。大会は、1日1ルートずつ2日間で行われた予選の2ルートを全員が登った総合成績により、女子ジュニアは6名、その他のカテゴリーは10名の選手が3日目の決勝に進出。

予選は傾斜の異なる左右の壁で男女別に1ルートずつ設定され、左壁の第1ルートは男女ユースCのみ一



田中修太選手

部修正したルート、右壁は男女別に全員共通のルートで競技が行われた。

予選の各ルートの設定グレードと完登者数は以下の通りである。

<予選>

男子 第1ルート(左壁)

ユースC	5.13 a / b	完登者なし
ユースC以外	5.13 c	完登者3名

第2ルート(右壁)

全員共通	5.13 b / c	完登者3名
------	------------	-------

女子 第1ルート(左壁)

ユースC	5.13 a	完登者なし
ユースC以外	5.13 b	完登者2名

第2ルート(右壁)

全員共通	5.12 d / 13 a	完登者3名
------	---------------	-------

<決勝>

男子 ユースC	5.13 a / b	完登者2名
ユースC以外	5.13 c / d	完登者なし

女子 ユースC	5.13 a / b	完登者なし
ユースC以外	5.13 c	完登者1名



ユースC男子表彰



ユースC女子表彰

49名の選手が出場した男子ユースCは、決勝ルート
を小俣史温(東京)と安楽宙斗(千葉)の2名が完登し、
予選カウントバックで小俣が優勝。女子ユースCは予
選、決勝共に完登者こそいなかったが、将来有望な選
手は何名も現れ、抜井美穂(奈良)が予選1位の小田
穂香(大阪)を逆転しての優勝を果たした。男子ユース
Bは、予選第2ルートを同高度の吉田智音(奈良)、
田中裕也(岐阜)、村下善乙(千葉)の3人が決勝で1、
2、3位となり、今後も互いに切磋琢磨しての成長が
期待される。男子ユースCと並んで最多の49名が出
場した女子ユースBではリードジャパンカップファイ
ナリストの小池はな(埼玉)が予選の2本のルートを
共に完登し、決勝でもその実力を発揮して優勝。男子
ユースAは成長著しい百合草碧皇(埼玉)が決勝では
男子全選手中の最高高度で優勝。実力者のそろった女
子ユースAは、予選を1ルート完登で2位通過の森秋
彩(茨城)が決勝をただ一人完登して、予選を2ルー
ト完登で1位通過した平野夏海を逆転して優勝した。
男子ジュニアは予選2ルート完登の田中修太(新潟)
が、決勝では完登ながらも実力を発揮して優勝。予選
2位通過の今泉結太(茨城)は決勝で痛恨のクリップ
飛ばしにより表彰台を逃したが、悔しさをワールド
カップなどの国際大会で晴らすことを期待したい。女
子ジュニアは予選3位通過の樋口結花(佐賀)が決勝
で気迫のこもった登りで逆転優勝。

予選、決勝を通して大きなボリューム類が散りばめ
られたボルダー力が要求されるルートで、リードも持
持久力だけでは勝負にならない時代になっているが、特
に決勝ではオンサイト能力、現場処理能力が試され、
ホールドの付いていない個所を有効に使うことが必要
な場面も多く、対応力がより重要になってきている。
参加者数が300名近くとなり、特に低年齢の参加申込
数が毎年大幅に増えてきており、競技の広がりとレベ
ルアップを実感するが、国際大会出場資格がなく体格
的にも差のあるユースCを今後は別の大会として実施



百合草碧皇選手

する必要が生まれてくるかもしれない。年度末の3
月に2回の大会の開催を受け入れていただいた地元印
西市の関係者、および役員スタッフの皆様のご協力に
紙面をお借りして深く感謝申し上げます。

(大会副実行委員長 目次俊雄)

【ジュニア男子】

順位	氏名	予選ルー1		予選ルート2		予選 総合順位	決 勝	
		高度	順位	高度	順位		高度	順位
1	田中 修太	TOP	1	TOP	1	1	33+	1
2	小西 桂	32+	9	TOP	1	3	30+	2
3	山口 龍磨	31+	10	38+	4	9	29	3
4	天笠 颯太	35+	4	38+	4	5	28+	4
5	井上 遼	36+	3	38+	4	4	26+	5
6	川畑イサム	33	8	38+	4	8	25+	6
7	河上 紘輝	35+	4	38+	4	5	24+	7
8	中島 大智	33+	7	38+	4	7	24+	8
9	今泉 結太	37+	2	TOP	1	2	19	9
10	雪丸 周平	34+	6	35+	11	10	14	10

【ジュニア女子】

順位	氏名	予選ルー1		予選ルート2		予選 総合順位	決 勝	
		高度	順位	高度	順位		高度	順位
1	樋口 結花	29+	2	33+	3	3	30+	1
2	倉 菜々子	30+	1	36	2	1	20+	2
3	中村 真緒	28+	5	33	4	4	20	3
4	西田 朱李	29	4	32+	5	5	20	4
5	黒岡 水夢	27+	6	32+	5	6	19+	5
6	小島 果琳	29+	2	36+	1	2	14	6

【ユースA男子】

順位	氏名	予選ルー1		予選ルート2		予選 総合順位	決 勝	
		高度	順位	高度	順位		高度	順位
1	百合草碧皇	TOP	1	38+	1	1	34+	1
2	鶴 隼斗	35+	4	37.5	6	5	30+	2
3	大政 涼	TOP	1	38+	1	1	28+	3
4	瀬川 寛	35+	4	37	8	7	28+	4
5	竹田 創	32	10	36+	9	9	26+	5
6	前田健太郎	37+	3	38+	1	3	26	6
7	川又 玲瑛	34+	7	37+	7	8	24	7
8	抜井 亮瑛	35+	4	38+	1	4	22	8
9	伊藤寛太郎	34+	7	38	5	6	20	9
10	鷹見 真洋	30+	11	35+	10	10	14	10



樋口結花選手



森秋彩選手

【コースA女子】

順位	氏名	予選ルー1		予選ルート2		予選 総合順位	決勝	
		高度	順位	高度	順位		高度	順位
1	森 秋彩	38+	2	TOP	1	2	TOP	1
2	平野 夏海	TOP	1	TOP	1	1	34+	2
3	工藤 花	29+	6	36+	3	6	28+	3
4	柿崎 未羽	30+	5	36+	3	5	26+	4
5	栗田 湖有	34+	3	36+	3	3	24.5	5
6	菊地 咲希	29+	6	36+	3	6	24	6
7	阿部 桃子	34+	3	36+	3	3	21	7
8	二宮 凜	29+	6	33	10	8	19+	8
9	菅原 亜弥	29	9	33+	9	9	19+	9
10	久米乃ノ華	27	13	36	8	10	13+	10

【コースB男子】

順位	氏名	予選ルー1		予選ルート2		予選 総合順位	決勝	
		高度	順位	高度	順位		高度	順位
1	吉田 智音	35+	1	38	1	1	29+	1
2	田中 裕也	34+	2	38	1	2	29	2
3	村下 善乙	23+	19	38	1	5	26+	3
4	田中 慧樹	27+	9	35+	5	8	22	4
5	上村 悠樹	30+	5	37+	4	3	21+	5
6	大下 賢実	31+	3	33+	14	6	21+	6
7	関口 準太	31+	3	35+	5	4	20+	7
8	鈴木 音生	27+	9	35+	5	8	20+	8
9	大後戸陽太	30+	5	35	10	7	20	9
10	田坂 桔平	29+	8	34+	13	10	19+	10

【コースB女子】

順位	氏名	予選ルー1		予選ルート2		予選 総合順位	決勝	
		高度	順位	高度	順位		高度	順位
1	小池 はな	TOP	1	TOP	1	1	31+	1
2	森 奈央	34+	3	38	2	3	29+	2
3	美谷島ももか	34+	3	36	4	4	25+	3
4	中川 瑠	37	2	36+	3	2	23+	4
5	工藤 空	30	9	36	4	7	23+	5
6	吉田 清華	27+	12	36	4	9	23	6
7	小倉 紗奈	34+	3	33	9	6	20+	7
8	小林 舞	32	7	35+	8	8	20+	8
9	柏 綾音	29+	10	32+	10	10	20	9
10	高尾 知那	34+	3	36	4	4	14	10

【コースC男子】

順位	氏名	予選ルー1		予選ルート2		予選 総合順位	決勝	
		高度	順位	高度	順位		高度	順位
1	小俣 史温	39+	1	38+	1	1	TOP	1
2	安楽 宙斗	39+	1	36	3	2	Top	2
3	通谷 律	38+	3	35	4	3	38+	3
4	佐藤 悠織	38+	3	33	7	4	37+	4
5	内木 智	35	5	31	8	5	37+	5
6	隅谷 樂	30+	16	36+	2	6	36	6
7	谷井 和季	32+	10	34+	5	7	36	7
8	石津 元崇	30+	16	33+	6	10	33+	8
9	杉本 侑翼	33+	6	29+	9	8	25+	9
10	上原 玄武	33+	6	27+	10	9	25	10

【コースC女子】

順位	氏名	予選ルー1		予選ルート2		予選 総合順位	決勝	
		高度	順位	高度	順位		高度	順位
1	抜井 美緒	29+	5	35+	1	2	35+	1
2	小田 穂香	31	1	35+	1	1	33	2
3	妻嶋 心路	28	7	32+	6	7	32+	3
4	菊川 花恋	30+	2	33+	3	3	27	4
5	村越 佳歩	30+	2	32+	6	4	27	5
6	柿崎 咲羽	28	7	20+	10	10	26+	6
7	鈴木 結菜	27+	9	29+	9	9	25+	7
8	関川 愛音	29+	5	33+	3	5	24	8
9	永嶋美智華	30+	2	20	18	8	19	9
10	小林 和音	26	11	33+	3	6	18	10

法人化サポート説明会開催

2018年のスポーツ不祥事の頻発により、スポーツ庁によるスポーツ団体のガバナンスコードの策定が進んでおり、スポーツ団体にはグッド・ガバナンスが強く求められております。

本協会でも加盟団体のガバナンス確保のために加盟団体規程を改定して、今年度から加盟団体の法人化をサポートする支援事業を立ち上げました。JMSCAと業務委託契約を交わした弁護士が新法人設立まで担当者としてサポートします。担当者の報酬等はJMSCAで負担しますが、設立に要する実費(定款認証費、設立登記費等、約12万円)は各加盟団体の負担となります。

その第1弾として4月13日(土)に東京・渋谷のフォーラムエイトで法人化サポート説明会が行われました。説明会には、青森、宮城、栃木、群馬、埼玉、千葉、神奈川、山梨、長野、愛知、岐阜の11岳連(協会)が参加され、参加者は弁護士から熱心に個別指導を受けておりました。



ハウズ・ピーク東壁の雪崩遭難

池田常道

オーストリアのダーフィット・ラマ(28)とハンス・イェルク・アウアー(35)、アメリカのジェス・ロスケリー(36)というトップアルピニスト3人が、カナディアン・ロッキーのハウズ・ピーク(3295m)東壁挑戦中に消息を絶ち、雪崩の犠牲となったことが判明した。4月17日から開始された国立公園当局による捜索飛行で、巨大な雪崩跡と装備の一部が見つかったが、悪天候と雪崩の危険から、ビーコンを投下してマークすることしかできなかった。

状況が回復した20日と21日、捜索犬を含む一行が現場にドロップされ、遺体を確認した。同時に回収されたロスケリーの携帯電話には、頂上で撮られた3人のショットが保存されていた。一行は16日12時半ごろ頂上に立ったものの、東壁を下降する途中で雪崩に巻き込まれたものと推測されている。3人が挑んでいたのは、スティーブ・ハウスが20年前にバリー・ブランチャード、スコット・バックスの両ベテランと登ってM-16(VIWI7+A2)と名付けたルートだった。ブランチャードが雪崩を受けて負傷するなど、苦労させられた登攀で、これまで再登を許してこなかった。

*

ダーフィット・ラマは1990年8月4日、インスブルックで生まれた。父はネパール人ガイド、母はオーストリア人看護師だった。5歳のとき、ペーター・ハーベラーにクライミングの才能を認められ、10歳で初めて8aを登った。4年後にはフランスのゴルジュ・デュ・ルーで8a+をオンサイト、8cをレッドポイントしてみせた。その勢いを駆ってクライミングコンペに参入し、ヨーロッパのリード選手権(2007年)、同ボルダリング選手権(2008年)に優勝、IFSCワールドカップの2008年総合優勝も手にした。

08年に、ツィラータールのザークヴァントでヨルク・フェアフェーフェンと820m、7bのマルチピッチを登って以来コンペからアルパインに軸足を移し、セロ・トール南東稜のフリー化を目ざすようになる。09年のときは、プリボルト使用を企図して批判を浴びるが、12年には(フェアな手段で)フリー初登攀に成

功した。11年にはアイガー北壁のパシエンシア(8a)を再登、インドのセロ・キシウトワール(6155m)南壁を初登攀。2015年からはネパール・チベット国境のルーナク・リ(6907m)を3年続けて目ざし、昨年秋に単独で初登頂に成功した。

ハンスイェルク・アウアーは1984年2月18日、チロルのツァムスに生まれ、96年からラインホルト・メスナーに師事した。06年にはマルモラーダ南壁のテンピ・モデルニ(モダンタイムズ)を単独第3登。同年カラコルムに行き、シプトン・スパイアー東壁のウーマン・アンド・チョークを第2登、トランゴタワーのイターナル・フレイムを2日間で登った。07年にはマルモラーダ南壁のフィッシュ(7b+)をフリーソロ、チマ・オヴェストのパン・アロマ(8c)も第2登した。

13年からは遠征登攀に注力し、クンヤン・チッシュ東峰(7400m)に初登頂、15年にはニルギリ南峰(6839m)南壁を初登攀。16年にはトゥインズ東峰(7005m)北壁、18年にはルプガール・サール西峰(7157m)西壁を単独で初登攀した。

ジェス・ロスケリーは1982年7月13日、北米随一のヒマラヤニストとして名高いジョンを父、その妻ジョイスを母として、ワシントン州スポカーンに生まれた。18歳のときマウント・レーニアのガイドとなり、2年間に35回頂上に立った。03年には父と一緒にエヴェレスト(8848m)に登り、父子2代登頂を果たすとともに、当時のアメリカ人最年少記録を樹立した。

しかし、偉大な父の足跡を追うことはなく、アラスカに職を求め、キチャトナ山群のシタデルやスティキーン氷原のウィッチズ・ティットなどを登ってきた。17年にハンティントン南稜を初登攀。昨年はカラコルムでチャンギ・タワーⅡ峰に初登頂していた。



事故当時のハウズ・ピーク東壁 Parks Canada撮影



新連載 ～創立60周年に向けて～ (12)

『日山協と私』

高知県山岳連盟会長 麻田 正博

第5回全日本登山体育大会は四国剣山、三嶺で徳島県山岳連盟と高知県山岳連盟の共催で開催された。徳島市で開会式を行い剣山～三嶺を縦走して高知市で閉会式を行う4泊5日の日程であった。この大会には、四国4県のみならず24校の高校登山部員と顧問が徳島市、穴吹、剣山、名頃を経て池田で閉会式を行うコースに参加していた。また、この年山形県の朝日連峰で開催された第5回全国高校登山大会に登山部顧問として参加したのが日山協との関わりでのスタートとなる。

その後、第24回全国高校登山大会は、高知県中央部の池川町、本川村、大川村の3町村を会場として開催された。4泊5日、4コースで選手、監督630名、役員713名の大会運営は大変なことで、岳連や高体連、町村にも運営経験はないため、町村連合実行委員会、町村別実行委員会等でキャンプ場整備、登山コース整備、入山式、競技役員宿泊等の調整。競技役員養成講習会(3回)、競技補助員養成講習会(4回)の計画、運営、高知市での開会式、閉会式の運営補助員養成講習会(2回)と準備に明け暮れた。

この大会以後、高校総体記念行事として3ヵ町村巡回で登山レク大会を17回、健康登山大会を10回開催している。大会コースには標柱を立て、27回も記念行事が続く事は町村民、県民にとっても意義深い大会だった。

高校総体が終わると全日大会開催の話があり、第23回全日本登山体育大会を開催する事になる。会場は石鎚山系を中心にした池川町、本川村で2泊3日、3コースで、Aコースは手箱山登山、Bコースは石鎚北壁登攀、Cコースは土小屋からの石鎚山登山、全員シ



第23回全日本登山体育大会(石鎚山)

ラサ山荘宿泊。瓶ヶ森に登山して寺川で閉会解散。大会競技役員68名、参加者145名であった。

第57回よさこい高知国体の開催準備は平成6年から縦走、踏査、クライミング会場候補地調査を始めている。平成9年は、国体山岳競技の変革期で、国体運営の簡素化、効率化、経費負担の在り方が開催7県と文部省、日本体育協会間で協議して簡素化の方向が示されている。高知国体から山岳競技の種目が縦走とクライミングの2種目とし、選手は3名で、縦走、クライミングとも2名で競技をする事になる。平成10年2月に高知県中央部の6ヵ町村に縦走4コースとクライミング会場を内定し、11月には中心部になる本山町で関係町村連絡協議会を開催している。12月には、(社)日山協国体常任委員会(東京)に参加し、以後月1回の常任委員会に参加する事になる。この年の1月には競技力向上対策が検討され、9月に練習用のクライミングウォール設置場所を内定して、12年3月には春野運動公園に完成している。スポーツクライミング競技会場は本山町吉野地区に吉野クライミングセンターとして、全天候型で可動式、1階は会議室、2階・3階は一部吹抜けでリードやボルダリング練習場として設置された。周辺には駐車場もあり、遊具、公衆トイレもある公園になっている。

平成14年10月のよさこい高知国体は山間部6ヵ町村の開催で、会場整備、宿泊、輸送、通信、運営準備会議等で大変な時間と労力を費やした。こうした状態から国体の準備、運営の更なる簡素化、経費削減化、競技の見える化が進められ第63回大分国体から現在の競技種目になっている。これからも(公社)日本山岳・スポーツクライミング協会の進化発展を期待する。



吉野クライミングセンター

2019 Skimountaineering World Championships 報告

期 日：3月9日～16日(8日間)

開催場所：SWISS Villars sur ollon

参加選手：藤川健, 星野和昭, 小寺教夫, 遠藤健太,
國吉正紀, 松澤幸靖(監督兼選手)

開催種目 9日 開会式
10日 スプリント(晴れ)
12日 インディビジュアル(晴れ)
13日 パーティカル(曇り)
15日 チームレース(雨)
16日 リレー(晴れ)

パーティカルとチームレースを除き、スタート & フィニッシュは登山列車の終点でもある Col de Bretaye (1800 m) をベースに開催された。31ヶ国約250名の選手が参加。

【スプリント】

参加選手：52位藤川、53位小寺、56位星野、57位国吉
今大会は2026年のオリンピック種目採用を目指し、10日のスプリント種目では会場に大型モニターがセットされ、ネット上ではレースの様子が中継されるなど、IOC委員の視察も意識した初日の種目となった。初日を終え、夜のブリーフィングの際には、IOC委員もこの競技に良い印象を持った。成功であった。と報告された。

【インディビジュアル】

参加選手：57位藤川、61位松澤、63位小寺、66位国吉
1600mD+(6回の登りと5回の滑り)
結果的に今回の競技の中で唯一ゲレンデ外を使用した種目となった。(チームレースもインディビジュアルを長くして行われる予定だったが、悪天によりゲレンデ内にて開催)

3回目の370mに登りの中には約110mの狭いクワールの登りがあったが、ここにはスタッフが約100時間以上の時間をかけてフィックスロープ張りや、除雪



Briefingの様子



TEAM JAPAN

作業、ステップカットなどを行い、今大会最大の見せ場とすべく努力した様子が伺えた。もちろん我々選手にとってもこのような環境で競技ができたことは貴重な体験でもあった。

【パーティカル】

参加選手：53位藤川、56位遠藤、59位星野、61位国吉
当初予定していたゴール付近の強風により、ゴール位置が引き下げられ、標高差は僅か470m、距離は4.9kmとなり、どちらかといえば、距離は長めで緩すぎるくらいの登り傾斜であった。スタート直後とゴール手前に多少きつい登りはあるものの、前半から半分以上はクロスカントリーコースを使用しており、専用レーンを使用する選手もいた。ゆるく平坦なコースは技術を持った滑らせることのできる、クロスカントリー向きの選手が勝てる種目となった。

今後スキーマウンテニアリングもクロスカントリーコースのような平坦を使用するケースが増えてくるのだろうか? Verticalという名称からは全く想像できないコースレイアウトであり、スキーマウンテニアリング用具の特徴はクロスカントリーより急傾斜を登れることがアドバンテージであるから、平坦なコース取りはないと思っていたのだが、今後はクロスカントリー技術も磨かねばならないのであろう。

また、13日のVerticalは世界選手権では個人種目として最終となった。

日本チームとしては、藤川選手は今までの長い経験を生かし、個人種目で日本人トップの成績を残し一足先に現地を離れた。小寺選手は今シーズンW-CUPを回り経験を積み、確実に結果を残している。日本チームにも情報を知らせてくれ、メンバーの困った時など、人を紹介してくれ、とても助けられた。

国吉選手もそれぞれの種目に全力で戦い、レースの

空いた日は積極的にチームの補助に貢献してくれた。松澤はインディビジュアルで藤川を追いかけるも、力及ばずであった。しかし自分なりに頑張れたと思う。

また、今回初参加の星野選手と遠藤選手はフィニッシュラインまで自分の力を持たせるといふより、最初からトップ選手について行こうとするアクティブな行動を垣間見ることができた。今まで我々がやる事のなかった手法であるが、トップのスピード感やパワーを間近で感じられた事は、今後の競技人生に大いに役立つ事と思う。

【チームレース】

参加選手：星野・遠藤組 25位、小寺・松澤組 27位

15日に予定されていたチームレースは当初の2000mを超える標高差から、悪天候により、半分程度の標高差になり、街のホテル前をスタートし、滑りは少なく、ほぼ登りとなるゲレンデの開催となった。

星野・遠藤組は牽引ロープで星野が遠藤を引っ張る形を取っていた。

小寺・松澤組は松澤がこの日は調子が良くなく、登りで離れることが多くなってしまい、一体感にける内容のレースとなってしまった。

チームレースはヨーロッパではクラシックレースを中心に人気もあり、リズムやピッチを合わせることも含め、足並みをそろえる重要性がわかっている選手も多いが、日本では全くこのような種目のないことから、ゲーム運びについてはまだわからない部分も多く、今後はこのような種目でも多くの人に楽しんでもらえるようなイベントがあると、より関心も高まりレベルも上がると思う。

【リレー】

参加選手：星野・遠藤・小寺・松澤

(結果：11チーム中10位)

参加国は11チームと少なく、何とでもビリだけは避けようと、全員で単純なミスだけは無くすよう心がけて挑んだ。

1走の星野は途中までトップ集団についていき、最



Individualの様子

終的には10位であったが大きく遅れることはなく、その後はそのまま順位を皆で維持し、ロシアを引き離しゴールできた。今までアンカーは最終ゴールというのが当たり前のイメージのあった日本チームも、確実に階段を登っているように思える種目であった。

また、今大会中、リザルトに対して異論があった。

それは、バーティカルレースの女子の優勝者が片足スキーで(片方は手に持ったまま)ゴールしたことに對するペナルティーの有無。

もう一つはカデット(15-17才)選手のカーボンツーツの使用に関してである。

この2点において、ペナルティー無しとされたが、レフェリーやコーチが、おかしいのではないか? ルールを無視して良いのか? と行ったやり取りもあった。コーチが集まって意見交換という話も出たが、特にミーティング等はなく、結果に対する説明は特になかった。おそらくチーフレフェリーら数人による最終判断にて、この問題はノーペナルティーでそのまま最終判断された模様。

今回の世界選手権参加にあたっては、精一杯頑張った選手に感謝したいと思う。現地では、日本人のボランティアで来られていた、三木茉莉さん、小島夏香さんにも通訳などで世話になりました。

そして、選手が世界選手権に参加するため、多くの時間を割いていただきました日本山岳・スポーツクライミング協会担当者様に御礼申し上げます。

アジアンミーティング報告

開催日時：3月11日(16:00~)

内容：それぞれの国のSKIMO事情について聴取
ISMFより：Mariotta Armando 会長、Lopes Luis 副会長、Cavallo Roberto ゼネラルマネージャー、Montero Oliol レフェリーマネージャー

【インド】フェデレーションは人間の関係で発展が遅れている。トレーニング関係で特に支援はなく、スポーツメーカーなどのパートナーシップを目指している。

【タイ】少しずつではあるが発展し始めている。日本(キロロ)からもサポートを受けている。

【韓国】ピョンチャンオリンピック以来スキーの注目は大きくなりつつあり、SKIMOは20年の歴史だが現在さらに注目されている。しかし、韓国の場合、ほとんどのゲレンデで、登りが禁止されている。そして、スキー場が今シーズンは雪が少なく2箇所くらいでしかトレーニングができていないのが現状。



Asian Meeting

また、韓国のYOO Han Kyuさんとの連絡はほとんどつかない状況である。

【中国】ユースの強化に取り組んでいる。(20人ほどのアスリートを育成中である) アジアンチャンピオンシップは2020年2月17日に行う。

※アジアンチャンピオンシップを2月に開催するという、この発言を受けて、ISMFとしては、すでにその年はイランが開催すると言っているが、イランと連絡は取り合って決めたのか？との問いに対し、連絡はしていないとの返答があった。(どういう経緯でそうしたのかはわからないままである)

【日本】年々国内でのSKIMO大会も増えつつあり、現在は約10～15レースくらいになっている。選手の育成に関しては、現状ではできていない。大会の誘致はもちろん強化についても費用面でかなり厳しいものがあり、東京2020オリンピック後に、それについては期待したいと思っている。

ISMFよりアジア各国へ

アジア全体で見た場合、フェデレーションどうしの連携がうまくいっていないことと、各国のフェデレーションで育成はあまり進んでいないようだ。我々としてまず、それぞれの国に望みたいのは、強い選手を育成してほしいということである。それはフェデレーションが中心ではなく、皆さんの力によるもので作り上げてほしいということである。特に日本はこのスポーツに向けた環境はあるので、これから期待している。(記 松澤幸靖)

IFSC Officials Seminar 2019

2月16日、17日の2日間、IFSC本部(イタリア・トリノ)でIFSC Officials Seminarが開催された。このセミナーはシーズンの開始前にIFSCの方針や競技規則の変更点について情報を共有する年1回の会議で、そのシーズンに国際大会のTechnical Delegate、Jury President(審判長)、IFSC Judge(主任審判員)、Chief Routesetter、Routesetterの各ポジションに指名された国際審判および国際ルートセッターを対象としており、今回は40名程度のオフィシャルが参集した。JMSCAからは、チーフルートセッターとして岡野寛と平嶋元、IFSC Judgeとして羽鎌田直人の3名が参加した。

<1日目>

Solaris IFSC会長による挨拶の後、小日向IFSC副会長(スポーツ/イベント担当)より国際スポーツ界においてスポーツクライミングがどのような状況に置かれているか、そしてどのような方向に進んでいくかといったIFSCとしての方針が示された。特に東京オリンピックの準備状況については、概ね順調であることが報告された。

現状報告に引き続き、VerdoliniスポーツディレクターとDi Catoイベントオフィサーより2019シーズンの主要イベントに関して説明が行われた。今シーズンの特徴としては、W杯は各種目6大会(従来は8大会程度)に絞られ、かつ各種目のシーズンが明確になったことである。長らくボルダリングW杯最終戦として8月に開催されていたミュンヘン大会が5月に移動し、ボルダリングシーズンが4月から6月までとコンパクトになった。リードシーズンは従来7月開始を踏襲し、10月の印西大会が最終戦となる。スピードも従来通り年間を通じて実施される。また、今年は東京オリンピックへの参加権を懸けた戦いが始まる重要なシーズンである。上位7名が出場権を得る世界選手権は8月に八王子で開催され、11月末には3種目のオーバーオールW杯ランキングの上位20名で競われるオリンピック予選がフランス・トゥールーズで実施されるなど、重要大会目白押しのシーズンとなる。

コーヒブレイクの後に、2018シーズンの振り返りということで、各大会の長所と短所を模造紙に書き出すというワークショップが実施された。これは2018年のセミナーで書き出した2017シーズンの長所と短所に書き加えていく形で行われたが、開催地のお国柄も関係しているのか、ほぼ全てにおいて改善した大会もあれば、逆に短所が増えた大会もあり非常に興味深かつ

創業50周年記念特別企画

カナディアンロッキー最高峰Mt.ロブソンと
秀峰Mt.アシニポイン・ヘリ・キャンプ 12日間

発着地

東京

出発日

7/24(水)

旅行代金

648,000円

※燃油サーチャージ(2019年3月20日現在:目安約28,000円)が別途必要です。

旅行企画・実施 観光庁長官登録旅行業第490号/日本旅行業協会正会員/ボンド保証会員



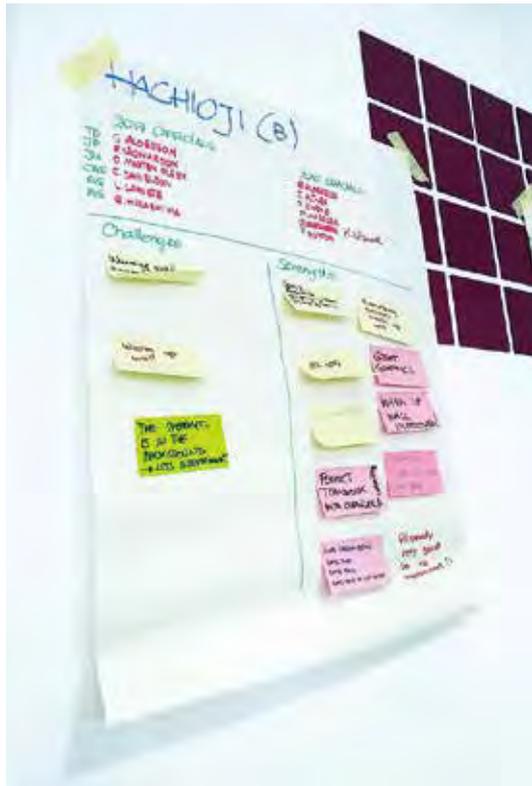
アルパインツアーサービス株式会社

本社 〒105-0004 東京都港区新橋3-2-5(第5東洋海事ビル4階) ☎03-3503-1911

大阪 ☎06-6444-3033 名古屋 ☎052-581-3211 福岡 ☎092-715-1557

E-mail: info@alpine-tour.com http://www.alpine-tour.com

た。肝心の八王子W杯の評価であるが、2017シーズンではアップウォールのサイズが小さいなどと指摘されたものの、2018シーズンではそれらも改善し、「Already very good so no improvement!!」と書き足されるなど、おそらくW杯では一番高い評価を受けていた。裏を返せば、今年の世界選手権では昨年までのクオリティを維持しつつもさらなる挑戦を期待されているということで、やや胃が痛くなったがこれだけ世界で認められる大会を日本で開催することができているということに誇りを持つと同時に、それを可能にしているボランティアスタッフの皆さんへの感謝の念がさらに強まった。



このようにセミナーでは基本的に競技に直接関係するトピックでのワークショップが実施されているが、今年は初めて倫理委員会のセッションが設けられた。現在のIFSC倫理委員会の委員長は往年の名クライマーであるMarc Le Ménestrel氏が務めており、2日目も含めて2時間程度、倫理とは何か？という非常に哲学的なテーマでの講演が行われた。これは、最近特にルートセッターがW杯の上位選手をコーチングしているのはいかなるものかといった批判がIFSCにも寄せられていることから、オフィシャルの倫理観の形成のために実施されたようである。

午後からは再び技術的な話題に戻り、審判とセッターに分かれてそれぞれでのセッションを行った。審判側は、2020シーズンから運用開始予定の新リザルトシステムのモックアップが行われ、システム開発者との間で意見交換を行った。セッター側は、今年の各大

会への指名の確認と、今後の指名の方針について議論が行われた。

また、パラクライミングに関しては昨年下半年期に着任したParaclimbing Development OfficerのTorchia氏から改善案についての報告があり、現在のParaclimbing Commissionの解体や障害別カテゴリーの見直し等の検討が行われているとのことだった。尚、Torchia氏はイギリスの有名サッカークラブでパラスポーツの推進に関わっていたとのこと、パラスポーツの専門家によってパラクライミングは大きく前進するような予感がした。

1日目の締めは恒例の懇親会で、今年は中心街のビアホールで地ビールと地元の食肉を使用したハンバーガーに舌鼓を打ちながらで親交を深めた。

<2日目>

2日目は初めにスポーツディレクターの古い友人で現役ラグビーイタリ代表選手よりチームワークの大切さに関するセッションを行った。クライミングは個人競技のため、なかなかチームワークを実感する機会はないが、オフィシャルとして多国籍かつ審判とセッターというバックグラウンドがかなり異なるチームで仕事をする場合はかなりチームワークは重要である。特にコミュニケーションを取りやすい環境づくりが重要であるという指摘はかなり基本的なことながらも国内での大会運営やオフィシャルの統括でも注意深く取り組むべき課題だと再認識した。

午前の後半からは、2019シーズンのルールの適用に関する説明が行われた。特にボルダリングでは、スタートポジションに関して2018シーズンに変更した点を再度2017シーズンまでの解釈に戻すなど、やや混乱気味ではあったが、概ね昨シーズン通りということだった。競技規則の文言や体裁も、非英語圏の人が読んでも誤解のないようかなり平易なものに改められ(ルール委員会Hatch氏は日本人対策とボソッと漏らしていたが)、構成が大きく変わったが内容としては以前と変わりはない。コンバインドも昨シーズンまではイベントルールに組み込まれていたが、今シーズンから各種目のルールの項に入り、名実ともに第4の種目として扱われている。尚、コンバインドの大きな変更点としては、決勝進出選手数が6から8に増、ただし全体の競技時間は延長できないためボルダリングの決勝課題数は4から3に減となった。また、コンバインドスピード決勝は、対戦で負けた選手同士でのレースも追加され、従来のルールでの問題点であった最初に負けたほうがボルダリングまでに回復する時間が多くなってしま

という懸念が解決された。

2日間に渡る非常に濃い内容のセミナーであったが、2020年そして2024年に向けてオフィシャルの責任がどんどん増えていく中で、普段から放送や演出といった複雑な要素がある大会で働いている日本人の審判、セッターはアドバンテージがあるようにも感じた。

(羽鎌田直人)

平成30年度 登山普及情報交換会

平成31年2月16日(土)15時からBumB(東京スポーツ文化館)にて「登山普及情報交換会」が開催された。

今年度途中から「ジュニア普及委員会」から「登山普及委員会」へと名称が変わった。それに伴ってこれまでの「ジュニア普及情報交換会」から「登山普及情報交換会」になった。

これは当協会のもうひとつの柱であるスポーツクライミング部にも「普及委員会」ができたのでそれと区別するためと、これからはジュニアだけでなくすべての世代にわたって「登山」というスポーツの楽しさ・素晴らしさをアピールしていく必要があると認められたからである。

参加者は23名。会場が参宮橋の国立オリンピック記念青少年総合センターから夢の島のBumBに変わって少々交通の便の影響なのか、人数は昨年と比べると減った。

はじめに本協会の亀山筆頭副会長から、「東京オリンピックを前にスポーツクライミングに脚光があてられるなか、本協会の表看板である登山を今こそ盛り上げていくべきである。」と開会のあいさつがあった。

つづいて国立登山研修所の宮崎豊所長から「今年度の国立登山研修所の安全登山研修会について」と題して講演があった。一昨年に起きた那須の雪崩事故を受けて高校の山岳部顧問をふくめた多くの人を対象に4つの講習会を実施。そのうち場所を立山の登山研修所ではなく東京・名古屋・大阪の3会場で実施した「安全登山サテライトセミナー」には定員100名に対してそれぞれ倍近い参加者があった。またこれまでおこなってきた「中・高年齢安全登山指導者講習会」を「安全登山指導者研修会」と改称し、より多くの参加者を募るようにしている。こうした研修会の共催団体に「全国高体連登山専門部」を加え、多くの高校の先生たちが出張で研修会に参加できるようにした。

またJMSCAの蛭田伸一指導委員長からは現在まさに途上中の「夏山リーダー研修会への取り組み」と題

して講演があった。これは日本スポーツ協会の「公認スポーツ指導者制度」ほどの難しさではなく、登山をはじめと間もない人でも夏山リーダー資格取得をめざして取り組めるプログラムである。国際的な資格にもつながるようにしようとしている。18歳(高校3年生)から受講できるようにと考えている。

そして「少年少女登山教室」の報告から。栃木県の仙石富英氏の「親子登山教室」と群馬県の金子一実氏の「玉原スノーシュー登山他」どちらも大学などの山小屋を利用し、自然観察やロープワーク・雪の中での歩行などを体験できる企画である。

終了は17時。この後おこなわれた懇親会には八木原会長をはじめ13名が参加した。

登山普及委員会では「ジュニア」という冠がなくなったが、より多くの次世代を担う若者・こどもたちが自然と親しみ、生涯にわたって山に登り楽しむことができればと考えている。

どうしたらこどもたちを山に連れ出せるか。そのための知恵をこうした情報交換会で話し合えればと思う。

(登山普及委員会委員長 谷口浩平)

夏山リーダー講習会講師養成講習会

私達は今回初めて公益社団法人日本山岳・スポーツクライミング協会の講習会へ参加しました。2019年3月16日10時。受付終了時間ギリギリに到着し、緊張を和らげる間もなく着席するとすぐに講習会は始まりました。『夏山リーダー』の制度を理解するのは大変難しく、自分達でうまく展開する為にはどうすればいいのだろうと不安が先行します。各県の山岳連盟等に属さない会の登山者や個人登山者など所謂一般登山者への安全登山教育は私が所属する広島県山岳・スポーツクライミング連盟でも長年の課題の一つです。2年をかけた登山教室の開催。ハイキングスクールと称し3ヶ月の登山教室の開催。県民ハイキングと称すハイキングと講習をセットにした月一回の一日単位の催し等々と行ってきました。しかし、はっきりと目に見える効果は無く、地道な活動であり、山で遭遇する登山者には大丈夫なのかしらと疑問を持ちたくなる人々がたくさんいる状況です。それがこの『夏山リーダー』で一挙に解決するとは思いませんでした。今現在も先達の方々の連綿たる努力が続いています。そういえば私も登山教室の生徒でした。その歩みの中で掬われた一人です。そう考えると行動を起こさなければ何も始まらないと思えてきました。

講習会はまずは概要説明、千葉県の『夏山リーダー講習会』の先行開催時の詳細説明を受け、午後からは『夏山リーダー』の講習内容の説明を受けました。講習内容は自分自身が指導員講習会で受けた内容と重複しており、立場が変わっただけでした。濃密な1日目は終了。2日目も前日と同じく各項目に対して指導委員会、遭難対策委員会の錚々たるメンバーによる講習内容の説明が続きまして。本日は読図やスマホによるGPSの講習、セルフレスキューと更に盛りだくさんの内容。指導員講習の際にも指導することを考えながら勉強するように注意を受けましたが今回も同じ。一般登山者対象なのでもっと注意が必要と思われ、ポイントをついた説明、体験談・事例の列挙、『夏山リーダー』受講者に実際に行動して頂く体験型の講習など工夫が必要とのことでした。受講者の皆様は真剣に机に向かい、時には質問し受講されていました。

そして講習会は質疑応答、閉講式を迎えました。講習内容、事務手続き等も私達が講習を受けている間にも変更され続けており、随時HPに掲載されるとのことです。まだ、内容を理解できず質問することさえ出来ず悶々としている身には大変申し訳なく。一つ疑問点が浮かび質問させて頂き、机に戻って疑問点が浮かび、また質問させて頂くといった感じに。とろい。『夏山リーダー講習会』開催までの道は遠くこれからも何度となく質問させて頂くことになると思われます。すでに帰路の車の中で疑問点が浮かび対処せねばならず、これからも皆様にはご相談にのって頂きたくよろしくお願ひ致します。広島県山岳・スポーツクライミング連盟では、既に『夏山リーダー講習会』を2019年度に開



催したいと考えています。講習会成功の為、一丸となって課題をクリアして行きたいと思ひます。ご指導、ご鞭撻の程宜しくお願ひ申し上げます。

表丹沢への登山口にしながら山に登ることもせず(笑)、静かな環境の中で講習会に参加させて頂き、また日本山岳・スポーツクライミング協会の皆様、また他県の山岳連盟の方々と親交を暖めさせて頂きました。冒頭で述べました通り初めての参加で、更には経験不足が否めない身には大変緊張する環境ではございましたが皆様には感謝しかございません。夕食後、または講習の合間に歓談させて頂いたのは貴重な時間でした。本当にありがとうございました。またお目にかかれますように。

(一般社団法人広島県山岳・スポーツクライミング連盟
指導部 小家石美雪)

JMSCA

2019年度4月
常務理事会報告

日時 2019年4月11日(木) 18時～21時
場所 岸記念体育会館4F特別会議室
出席者 八木原会長、亀山・高橋・伊藤・平山各副会長、尾形専務理事、小野寺、相良、村岡、合田、仙石、蛭田、町田の各常務理事、中島、古屋監事
(17名中16名出席)
欠席者 水島、小日向常務理事

◎プレゼンテーション

会議に先立ちTOKYO2020代表ユニフォームのデザインについて(株)ゴールドウインからプレゼンテーションがあった。

1. 議事

(1)平成30年度2月第2回常務理事会・議事

- 録の承認について(承認)
- (2)平成30年度2月全国理事長会議議事録の承認について(承認)
- (3)平成30年度第4回理事会議事録の承認について(承認)
- (4)2019年度第1回理事会次第について議案第8号削除、報告第5号加筆で承認
- (5)2019年度定時総会次第について(承認)
- (6)正会員の除名について(提案文書書き換えで承認)
- (7)福岡岳連法人化について(平山副会長、蛭田常務理事が連携して支援強化を図る。)
- (8)次期役員候補者(一部)推薦について役員選考委員会からの代替え理事候補者の推薦を了承。
- (9)定款の改定について(承認)
- (10)組織管理運営規程一部改定について提案通り承認
- (11)A選手登録の過渡的措置について提案通り承認
- (12)夏山リーダー関係規程(規定)・規約につ

- いて(修正して再提案となる。)
- (13)委員長・常任委員の承認について遭対委員会とSC医科学委員会の委員長・常任委員が承認
- (14)国体功労者表彰対象者推薦について推薦対象者無しで承認
- (15)国体山岳競技の一部改正について提案通り承認

2. 報告

- (1)平成30年度2月度収支について
- (2)平成30年度事業報告について
- (3)IFSC総会報告、2019世界選手権について
- (4)IFSCワールドカップ、マイリンゲン、モスクワ大会派遣選手について
- (5)CLUB JMSCA ITADAKI 会員公募開始
- (6)第74回茨城国体リハーサル大会
- (7)NTCへの強化拠点施設設置要望書
- (8)全国遭対委員長会議について
- (9)第13回山岳スキー日本選手権報告
- (10)法人化説明会参加団体(11団体)

- (1)2019年度予算の内閣府提出完了
- (2)新事務所電話番号の決定
- (3)東京2020オリンピックボランティアの追加募集

3. 指導員・審判員 検定結果報告

(1)山岳指導員認定

山口県山岳・スポーツクライミング連盟からの申請認定について

- ①泉屋安正②橋本 謙治③吉武和文④大野紀子⑤志賀剛⑥原田ひろみ⑦米光伸行⑧羽田野健二⑨平川宜宏⑩野田康司⑪森義雄⑫竹本正幸⑬竹本加代子⑭藤井信義⑮藤井淳子

以上、15名を認定承認

(2)平成31年3月 審判員、ルートセッター認定等の昇格認定について

A級審判員2名、B級審判員3名、C級審判員69名、B級ルートセッター1名、C級ルートセッター5名、一般ルートセッター2名の認定及び昇格を承認

4. 後援報告、協賛等の依頼について

(1)後援名義承認、クライミング大阪チャンピオンシップ

清掃登山について

以上、2件の承認

5. 専門委員会動静(2月下旬～3月下旬)

(1)遭対委員会

- 2月27日(水) 出席8名、スカイプ7名
- ア)AvSAR上級コースの受講条件AvSARからの要望
- イ)常任委員研修会、総会について
- ウ)来年度予算案および開催予定スケジュールについて

(2)強化委員会

3月1日(金) 印西市・松山下公園総合体育館 出席7名

ア)協議

- ①選手ガイドラインについて
- ②オリンピック参加権獲得後の選考基準
- ③国際大会派遣日当の変更案について

(3)国際委員会

3月19日(火) 出席6名、委任5名

ア)報告事項

- ・ウインタークライマーズミーティング(3/9～10、滝谷、参加者22名)

イ)協議事項

- ①第58回海外登山技術研究会(平成31年度国際委員ミーティング)6/22(土)、23(日) 大橋会館(東急・池尻大橋駅から徒歩3分)
- ・「国際委員総会」の名称を「国際委員ミーティング」と改称。

(4)山岳スキー委員会

3月22日(金) ネット会議

出席5名、委任6名

ア)報告

- ・世界選手権 報告

イ)協議

- ・第13回日本選手権大会について4/6(土)～7(日) 梅池高原

(5)S C 医科学委員会

3月30日(土) 出席者9名、委任2名

ア)競技会医師担当割り当て

- ・F I S E Hiroshima、B Y日本選手権、C J Cの大会担当について決定

イ)各業務担当委員報告

①救護担当(中島委員)

- B J C (1/26～27、駒沢)、S J C (2/10、昭島)、L J C (3/2～3、印西)、L Y日本選手権(3/23～25、印西)の各報告

②学術担当(代・六角委員長)

- ・講習関連
- B M I : リードユース日本選手権で体重コントロールに関する研修を開催。決勝進出者全員のB M I を直接測定。

③パラクライミング担当(樋口委員)

ウ) J S P O 公認 A T 受講者候補について

エ) 2020年オリンピック関連について

(6)指導委員会

4月1日(月) 出席11名、委任2名

ア)新指導者制度について

- ①2019(令和元)年度の規程・規約集の改修について

②スポーツクライミング検定基準

イ)夏山リーダー講習会および検定会について

- ①第2回講師養成講習会の開催(3/16～17)

ウ)富士山の氷雪技術研修会の検討事項

6. その他の重要事項

(2月22日～4月10日)

(1)八王子市長表敬

2/22(金) 於:八王子市役所 八木原会長、尾形専務理事

(2)J O C 総務本部フォーラム

2/27(水) 於: N T C 尾形専務理事

(3)コンサルテーション

2/28(木) 於: N T C 尾形専務理事

(4)第4回理事会

3/2(土) 於: T K P 渋谷カンファレンスセンター 八木原会長以下、理事監事

(5)第32回L J C 印西

3/2(土)～3(日) 於: 印西松山下公園総合体育館 八木原会長、平山副会長、尾形専務理事、村岡常務理事

(6)噴火時等の避難計画手引き作成委員会

3/5(水) 於: 中央合同庁舎 尾形専務理事

(7)日本スポーツ協会評議員連合会総会

3/7(木) 於: 岸記念体育会館 尾形専務理事

(8)中国地区山岳連盟(協会)連絡協議会

3/9(土)～10(日) 於: 松江市玉造温泉 伊藤副会長

(9)相良忠磨常務理事褒章受章祝賀会

3/10(日) 於: ワークピア横浜 八木原会長他

(10)I F S C 総会

3/14(水)～17(日) 於: 品川プリンスホテル 八木原会長、亀山・平山副会長、尾形専務理事、小野寺、合田、村岡常務理事等(小日向 J F S C 副会長)

(11)スポーツ安全協会評議員会

3/18日(月) 於: 東海大校友館 尾形専務理事

(12)第5回NOC Open Days J O C レセプション

3/19(火) 於: ホテルマリンズコート東京 八木原会長、尾形専務理事

(13)日本スポーツ協会臨時評議員会

3/20(水) 於: グランドプリンスホテル高輪 尾形専務理事

(14)第21回秩父宮記念スポーツ医・科学賞表彰式・祝賀会

3/20(水) 於: グランドプリンスホテル高輪 尾形専務理事

(15)第7回リードユース日本選手権

3/23(土)～25(日) 於: 印西市松山下公園総合体育館 八木原会長、平山副会長、尾形専務理事、村岡常務理事

(16)I F 等役員ポスト獲得支援事業会議

3/27 於: 岸記念体育会館2 F 会議室

寄贈図書

寄贈本	多聞堂	スポーツクライミング
雑誌	Club alpino italiano	「Montagne360」april 2019
	(株)ネイチュアエンタープライズ	「岳人」No.863
	(株)山と溪谷社	「山と溪谷」2019 No.1009
	(公社)日本山岳会	「山」3月号 No.886
	健康・体力づくり事業財団	「健康づくり」2019年4月 No.492
	兵庫県山岳連盟	「兵庫山岳」第622号
	(一社)大阪府山岳連盟	「山岳 おおさか」No.220
	国土緑化推進機構	「ぐりーん・もあ」第85号
	Fishing Café	Winter 2019 Vol.62
	大阪府立体育会館	「季刊 府立体育館」No.128号
会報	日本勤労者山岳連盟	登山時報5月号 No.531
	大崎企業スポーツ事業研究助成財団	企業スポーツ 2019 Spring
	A-SPORTS 事業部	「ACTIS」2号
	日本防火・防災協会	「地域防災」No.25
	神奈川県山岳連盟	「ときわ木」175号
	植村直己冒険館	「植村直己冒険館だより」第20号
	東京野歩路会	「山嶺」VOL.96 No.1070
	HTA-J	「HAT-J NEWS」No.113

- 小野寺常務理事、小日向常務理事
 (17) U I A A 登山部会
 3/30(土)~31(日) 於:セルビア・ノビサド 青山常任委員
 (18) 第13回山岳スキー日本選手権
 4/6(土)~7(日) 於: 樽池高原スキー場 八木原会長、澤田委員長
 (19) J M S C A 全国競技委員長会議
 4/7(日) 於: 岸記念体育会館1F 平山副会長、村岡、合田、小日向常務理事、S C各委員長
 (20) 天皇陛下即位30年を祝う祭典「感謝の集い」 4/10(木) 於: 国立劇場 八木原会長

表紙のこぼれ

カンチェンジュンガ南峰から南東に派生する尾根上に7,730mの末踏峰が残されている。今時7,730mも末踏峰と言ったらブータンの最高峰で末踏のガンケールプンスム(7,541m)より高い末踏峰になり、食指を動かされそうになるが、ゼム氷河から仰ぎ見るとカンチェンジュンガ南峰に続く稜線上の突起のようで、山容としてはいささか苦しい。

このゼム・ピークから東に延びる稜線は、P. 7,038mを経て一気に切れ落ちてゼム・ギャップ(5,861m)に至る。ゼム・ギャップはカンチェンジュンガとシンヴェー山塊との間にあって、約1,000mの高度差を持つV字状の岩稜の切れ目となっている。(写真撮影者 尾形好雄)

編集後記

4月30日を以って平成から令和に元号が変わる。こぞって平成最後の何々と前置きが付くイベントや、平成時代の出来事の特集する記事・番組がにぎやかでフラッシュバックしたりする。本協会は開けて令和2年に創立60周年を迎える。30年前を振り返るには50周年記念誌が登山月報のバックナンバーが頼りだ。見方を変えれば紙媒体もそう悪くはないはずだ。そんな意味も含めて「日山協と私」への寄稿を宜しく願います。

(広報担当 水島彰治)

一般財団法人 日本トレイルランニング協会

〒252-0184
 神奈川県相模原市緑区小淵1545-1
 ☎042-687-4011 FAX 042-687-3980
 E-mail kitatanzawa@kib.biglobe.ne.jp

NPO法人 **北丹沢山岳センター**
 神奈川県・山梨県東部トレイルラン連絡協議会

事務局 〒252-0184 神奈川県相模原市緑区小淵1545-1
 TEL 042-687-4011 FAX 042-687-3980
 E-MAIL kitatanzawa@kib.biglobe.ne.jp

- ・北丹沢12時間山岳耐久レース実行委員会
- ・陣馬山トレイルレース実行委員会
- ・道志村トレイルレース実行委員会
- ・八重山トレイルレース実行委員会
- ・東丹沢宮ヶ瀬トレイルレース実行委員会
- ・上野原秋山トレイルレース実行委員会

大会々長 杉本憲昭

登山月報 第602号

定価 110円(送料別)
 予約年間 1,300円(送料共)
 昭和45年12月12日
 第三種郵便物認可
 (毎月1回15日発行)

発行日 令和元年5月15日
 発行者 東京都渋谷区神南1-1-1
 岸記念体育会館内
 公益社団法人
 日本山岳・スポーツクライミング協会

電話 03-3481-2396
 F A X 03-3481-2395

山岳雑誌

岳人

がくじん

山と人、時代をつなぐ「岳人」

6月号 発売中

【特集】花に出会う山

★モンベルのウェブサイト
 全国のモンベルストアや書店にて発売中!

毎月15日発売 価格815円(+税)

年間購読がおすすすめです。

購読割引

送料無料

限定品プレゼント

年間購読なら、お得な価格で毎月お手元に冊子が届きます。

通常本体価格12冊

年間購読なら12冊

~~9,780円~~ → **8,965円**

(+税)

1年間で**815円**

1冊分無料!

年間購読特典 岳人オリジナルグッズをプレゼント!

岳人 ミニワレット (2個セット)

サイズ:9×10cm
 ※カラーはお選びいただけません

さらに はじめてお申し込みの方に

岳人ピンバッジ

提携施設「岳人の湯」で提示すると入浴料割引などの優待が受けられます。

年間購読のお申し込み **WEB** <https://www.gakujin.jp/> | 全国のモンベルストアでも受付中!

お問い合わせ **モンベルポスト** ☎0120-982-682 / TEL 06-6538-5797
※フリーコールは携帯・IP電話からはご利用いただけません。

あなたを守る。
あしたを作る。
三井住友海上

損害保険と聞いて、
なにを思い浮かべますか？

ケガ、災害、事故…日々の中で起こりうるリスクをカバーする。それは私たち三井住友海上の重要な任務ですが、すべてではありません。たとえば同じ自動車保険でも、暮らしの変化や自動車の進化を見つめて改善を続けること、宇宙開発や再生医療など、まだ世界にない保険を新しく作ることで社会の前進をサポートすることも、とても大切な役割です。変わらない一日に寄り添い、より豊かな明日を実現したい。だから私たちは、守ることと作ること、その両方を繰り返しながら前へ歩み続けます。

みつ い すみ とも かい じょう
三井住友海上
時空保険
探査部
Space-time Insurance
Exploration Department

人類にとっての
損害保険の
必要性を調査。

時空を超える
ゲート。

社員証をかざせば
タイムワープ。

立ちどまらない保険。

MS&AD

三井住友海上



山岳保険の加入は 登山者のマナーです

あなたの山岳保険は大丈夫ですか？

- | | |
|------------------------------------|---------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 傷害死亡・後遺障害 | <input type="checkbox"/> 遭難捜索費用 |
| <input type="checkbox"/> 救援者費用 | <input type="checkbox"/> 傷害入院費用 |
| <input type="checkbox"/> 傷害通院費用 | <input type="checkbox"/> 傷害手術費用 |
| <input type="checkbox"/> 個人賠償責任 | |

日山協 山岳共済会 〒170-0013 東京都豊島区東池袋 3-7-11-707

TEL 03-5958-3396 FAX 03-5958-3397

E-mail sangakukyousai@mbd.ocn.ne.jp

月曜日～金曜日 10:00～17:00 (祝日除く)

携帯からも資料請求ができます。
公益社団法人 日本山岳・スポーツクライミング協会
携帯サイト (www.jma-sangaku.or.jp)



WEBからもお申込みいただけます (www.sangakukyousai.com)